

広島市現代美術館

インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史

2019.9.18(wed)-12.8(sun)



マーク・フォスター・ゲージ(ヘルシンキ・グッゲンハイム美術館)CG映像(2014)
映像提供:マーク・フォスター・ゲージ・アーキテクト

倉敷アイビースクエア アイビー学館

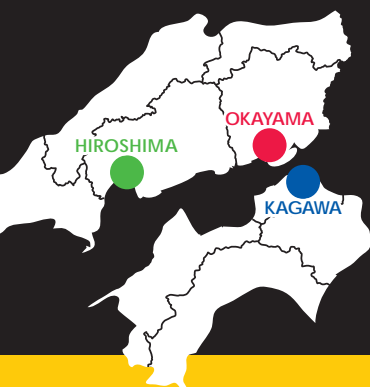
建築家 浦辺鎮太郎の仕事

倉敷から世界へ、工芸からまちづくりへ

2019.10.26(sat)-12.22(sun)



倉敷アイビースクエア(1974)
©Forward Stroke inc./撮影 フォワードストローク



瀬戸内3県 ケンチク展

行かなくちゃ!



瀬戸内は、広島ピースセンターや香川県庁舎など、約50年前の戦後モダニズム建築の実践の場となる一方で、砂利採取など高度経済成長の骨材を供出し環境破壊が進行したという負の歴史を背負った地域でもあります。

瀬戸内国際芸術祭2019で瀬戸内の島々へお越しいただくとともに、行政や機関の壁を越えた三館の展示を見ることにより、これらの建築を育んだ歴史的風土や環境を体感してください。

北川フラム Fram Kitagawa

瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター

20世紀初頭にヨーロッパで産声を上げ、世界的スケールで展開されたモダニズム建築は、日本にどのように受容され、どんな形で地域へと根づいていったのか。また、その時、近代以前の木造文化の歴史をどのように理解し、どんな解釈を施して培われてきた方法を継承発展させたのか。そのことを考える上で、瀬戸内海各地に戦後生み出された建築群は、良質な手がかりを与えてくれる。幸いにも、今秋は3県の3施設で建築展が同時開催される。未完に終わった世界のモダニズム建築プロジェクトから、倉敷に根ざした建築を求めた浦辺鎮太郎、そして、丹下健三や山本忠司による地域主義的な展開まで、展覧会を巡りつつ、これらの地域を訪ね歩くことは、これからの建築と地域の未来を切り拓ききっかけになるだろう。

松隈 洋 Hiroshi Matsukuma

建築史家 京都工芸繊維大学教授



瀬戸内海歴史民俗資料館(1973)
撮影:株式会社四航コンサルタント

香川県立ミュージアム

日本建築の自画像

探求者たちのもの語り

2019.9.21(sat)-12.15(sun)

インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史

建築の歴史を振り返ると、完成に至らなかった素晴らしい構想や、あえて提案に留めた刺激的なアイデアが数多く存在しています。未来に向けて夢想した建築、技術的には可能であったにもかかわらず社会的な条件や制約によって実施できなかった建築、実現よりも既存の制度に対して批評精神を打ち出す点に主眼を置いた提案など、いわゆるアンビルト／未完の建築には、作者の夢や思考がより直接的に表現されているはずです。この展覧会は、20世紀以降、国内外を含む約40名の建築家・美術家が手がけた未完の建築プロジェクトに焦点をあて、それらを仮に「インポッシブル・アーキテクチャー」と称し、図面、模型、関連資料などを通して読み解きながら、未だ見ぬ新たな建築の姿を展望します。

- 会期** 2019年9月18日(水)～12月8日(日)
- 開館時間** 10:00-17:00 (入場は閉館の30分前まで)
- 休館日** 月曜日 (ただし祝休日にあたる場合はその翌平日)
- 観覧料** 一般1,200円(1,000円)、大学生900円(700円)、
高校生・65歳以上600円(500円)、中学生以下無料
※()内は前売り及び30名以上の団体料金 ※11月3日(文化の日)は全館無料

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園1-1 TEL:082-264-1121 www.hiroshima-moca.jp



日本建築の自画像 探求者たちのもの語り

われわれがよく聞く『日本建築』とは、何なのか?そもそも、何が『日本的』なのか? 本展では『日本建築』というイメージを、建築史家・建築家・地域の人々、という三つの視点による複数のまなざし＝『自画像』として紹介します。設計図・写真に加え、建築模型や動画を用いた立体的な展示構成から、『日本建築』を取り巻く時代背景や思想に注目します。さらに、瀬戸内や沖縄といった地域からみえる『日本』のありようにも目配りすることで、改めて『日本建築』とは何か、を問いかけます。

- 会期** 2019年9月21日(土)～12月15日(日)
- 開館時間** 9:00-17:00 (入場は閉館の30分前まで) ※夜間開館あり
- 休館日** 月曜日 (ただし祝休日にあたる場合はその翌平日)
- 観覧料** 一般1,200円(1,000円)
※()内は前売り及び20名以上の団体料金、瀬戸内国際芸術祭2019パスポート提示での料金(1回限り) 高校生以下の方、65才以上の方、身体障害者手帳をお持ちの方は無料

〒760-0030 香川県高松市玉藻町5-5 TEL.087-822-0002 www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/



建築家 浦辺鎮太郎の仕事 倉敷から世界へ、工芸からまちづくりへ

浦辺鎮太郎(1909～91年)は、岡山県倉敷市に生まれ、大学卒業後は、倉敷絹織(現・クラレ)に入社します。倉敷の実業家・大原総一郎とともに、倉敷を、歴史を大切に守り育てる都市にするべく営繕技師として働き始め、のちに独立します。大原美術館分館(1961年)や倉敷国際ホテル(1963年)、倉敷市民会館(1972年)、倉敷アイビースクエア(1974年)、倉敷中央病院(1975～81年)、倉敷市庁舎(1980年)等倉敷での仕事の他、数多くの建物を設計しました。生誕110年を記念し、没後初となる本展では、営繕技師の時代から晩年に至るまでの全軌跡を紹介します。地域に根ざし、伝統や風土と対話しながら近代建築のあり方を問い続けた浦辺の仕事が、これからの建築や町づくりへ大きな手がかりを与えてくれるものとなるでしょう。

- 主催** 浦辺鎮太郎建築展実行委員会
- 会期** 2019年10月26日(土)～12月22日(日)
- 開館時間** 10:00-18:00 (入場は閉館の30分前まで)
- 休館日** 月曜日 (ただし祝日は開館)
- 観覧料** 一般1,000円、大学生500円、高校生以下無料

〒710-0054 岡山県倉敷市本町7-2 TEL.086-422-0011 https://urabeten.jp



3館周ってプレゼントをもらおう!

各展覧会会期中、スタンプラリーを開催!(スタンプは受付にございます)
3館全ての展覧会をご覧になった方、各館先着30名様にプレゼントを贈呈!

日本建築の自画像 探求者たちのもの語り	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	建築家 浦辺鎮太郎の仕事 倉敷から世界へ、 工芸からまちづくりへ
香川県立ミュージアム	広島市現代美術館	倉敷アイビースクエア アイビー学館

